【プロジェクト名】 ナッジを利用した泉北高校のゴミ（ペットボトル）の分別状況の改善

【代表者名】 大阪府立泉北高等学校　榮嶋　莉子

【実施フィールド】 大阪府立泉北高等学校（大阪府堺市）

ベストナッジ賞応募資料
提出日：令和5年6月23日

取組概要

背景情報：解決したい社会や行政の課題

泉北高校では、分別のため各教室にペットボトル専用のゴミ箱があるが、分別を知らないことや、「みんなもしていないから自分もしなくていい」という考えから、ペットボトルの分別が全くされていない（ラベル・キャップがついたままゴミ箱に捨てている。又はペットボトル以外のものを捨てている。）状態である。

課題分析：目標行動を阻害するボトルネック

①分別方法は知っているが、「みんなもしていないから自分もしなくていい」という安易な考えから、面倒さが勝ち、分別せずに捨てていると思う。
②分別に興味がなく、正しい分別方法を知らないと思う。

解決方法：ナッジの概要と活用した行動科学の知見

介入①：【みんなしてんで大作戦】 中身の見えるゴミ箱を設置し、ゴミ箱の中にキャップとラベルを剥がしたペットボトルを入れておく。（Social：規範の提示）
介入②：【パッポイ大作戦】 ゴミ箱のそばに手作りの分別方法を描いたポスターを設置し、分別に興味を持ってもらう。（Timely：タイミング）（Attractive：関心を引く）

実施内容

検討期間：R4.11.18～　　実施期間：R4.12.2~R5.1.27

支援機関・年度：堺市環境行動デザインチームSEEDs　・　R4年度
支援内容：ナッジ概要の講義、介入方法・効果分析について相談

2年生のクラス（全7クラス）を対象に、以下の4つのグループに分け、それぞれに異なるナッジ介入を実施した。

〇グループごとの介入内容
・グループA：介入①と②
・グループB：介入①
・グループC：介入②
・グループD：対照群

【 介入①】

【 介入②】

↓設置状況

効果測定の手法

ナッジ介入の認識率と分別の実施率について、各グループのペットボトルの本数と状態を記録し、定量的にデータの分析を行った。加えて、測定終了後、対象教室の全生徒にアンケートを行い、介入による分別に対する意識の変化を調べた。

得られた結果・社会や行政への応用可能性

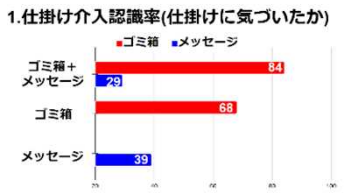
【測定結果】

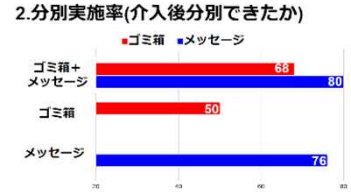
〇データ取得期間
介入前：R4.12.5～R5.1.13　　介入後：R5.1.16～R5.1.27

グループ	ペットボトルの分別率（※1）			異物混入率（※2）		
	介入前	介入後	差	介入前	介入後	差
A	0.0%	40.0%	+40.0%	20%	0%	-20.0%
B	10.8%	7.1%	- 3.7%	13%	7%	-6.0%
C	2.9%	27.8%	+24.9%	13%	18%	+5.0%
D	7.3%	0.0%	- 7.3%	54%	56%	+2.0%

（※1）ラベル・キャップ両方ともはがされた状態であるペットボトルの本数の割合。高いほど良い数字。
（※2）ペットボトル以外のものがごみ箱に入っていた割合。低いほど良い数字。

【アンケート結果】





測定結果から、介入①より介入②の方が、分別を促進できたと考えられる。また、参考にデータ収集していた異物混入率の結果から介入①はペットボトル以外のものを入れてはいけないという心理には寄与したと考えられる。介入①②共に、異物が多く、分別状況が比較的悪いと言われる歩道沿いにあるような自動販売機横のごみ箱への活用が期待できる。